

総合的な探究の時間

～生徒の主体的な学びを実現する伴走者としての教師～



北海道白老東高等学校

教諭 ○○ ○○

※本スライドに示されている写真は、学校所有備品（道費で購入したデジカメ）を使用、また、掲載については、全体指導の際に周知・承諾済み。その他は、教ICT 317号 2025.9.12 教育長通知 による口頭許可に基づいて運用していることを申し添えます。

0, 内容

- 1, 学習指導要領に示された「探究」の意義
- 2, 今年度「手引」の内容
- 3, 本校の実践紹介
- 4, 提言とまとめ

1, 学習指導要領に示された「探究」の意義

そもそも、なぜ「探究」なのか？

→ 社会が求める力の変化（探究が求められる背景）

これまでの社会	これからの社会
正解のある課題	正解のない課題 (不確実な社会)
指示されたとおりに動く力	問いを立てる力 (課題発見力)
教師が教える	共に探る (ファシリテートする)

これらを踏まえ、学習指導要領ではどのように記載されているか。

1, 学習指導要領に示された「探究」の意義

「総合的な探究の時間」の目標（学習指導要領を要約）

- 生徒が「自ら課題を設定し、情報を収集、整理・分析し、まとめ・表現する」過程を通して学ぶ。
- 教師は、生徒の主体的な学びを支援し、指導・助言を行う。

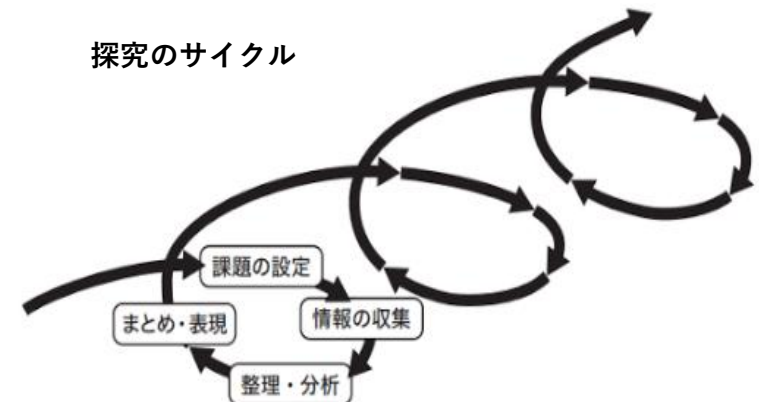


- つまり、「教える」ではなく「支える」ことが核心。
- 探究は「教科の外」で行う学びではなく、「学びの姿勢」を育む場。

（探究の主人公を経験しての所感）

総探の中で「**探究のサイクル**」を確立させることにより、他教科にてこのサイクルを応用できる。特に、科目名に「～探究」が付された科目で役立つ。ただし、このサイクルは、可能なら1年次に定着させることが望ましいと考える。 → **早期に定着させれば、2, 3年次は自走が可能。**

探究のサイクル



1, 学習指導要領に示された「探究」の意義

○ 学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編

第5章 指導計画の 作成と内容 の取扱い

また、この時間は特定の教師のみが担当するのではなく、全教師が一体となって組織的に指導に当たることが求められる。このことは、横断的・総合的な学習を行うなどのこの時間の目標からも明らかである。生徒の学習が一人一人のテーマに応じて多様に展開する場合や、複合的な内容を含む場合などは、教師の専門性を積極的に生かし、それぞれの学習活動の特性に応じた指導体制を工夫することが考えられる。この時間の企画・立案の段階から、全教職員の連携協力体制を整え、一体となって取り組むことがとりわけ重要である。学校がどのような課題を取り上げ、また、生徒がどのような課題に取り組むのかが決まれば、それにふさわしい学習活動は何であり、それにふさわしい指導体制はどうあるべきか、それぞれの教師が自らできることは何かという観点から、おのずと教師それぞれの役割分担が決まり、学校全体としての指導体制が固まっていく。高等学校においては、教科担任制という指導体制にとらわれず柔軟な指導体制を組む必要がある。

すなわち、この時間は特定の教師のみが担当するのではなく、全教師が一体となって指導に当たることが重要である。このことは、横断的・総合的な学習を行うなどのこの時間の目標からも明らかである。そのためには、同学年や異学年の教師が協働で計画や指導に当たるとはもちろん、校長、副校長、教頭、養護教諭、司書教諭、学校図書館司書、実習助手、講師などもこの時間の指導に関わる体制を整え、全教職員がこの時間の学習活動の充実に向けて協力するなど、学校全体として取り組むことが不可欠である。

解説58～59頁

「総合的な探究の時間」を全教職員で取り組む根拠

マンパワーにならないように、組織的な対応が重要。
このこと（体制づくり）が、校内体制（分掌等）が入れ替わっても、持続可能な取組につながる。

2, 今年度の「手引」の内容

(1) 主体的な学びを深める「振り返り」と「評価」

- ・ 振り返りを通して自己理解を深め、学びの意味や価値を自覚することが重要。
- ・ 評価は次の3つの資質・能力を育成する観点から行う。
 - ① **自己理解・他者理解**（多様な意見の尊重、自己の特性理解）
 - ② **主体性・協働性**（自ら課題に向き合い協働して解決）
 - ③ **将来展望・社会参画**（理想の社会づくりへの意識）



キーワード
振り返り

(2) 中間発表を起点とした振り返り

- ・ 探究活動の過程に**中間発表と相互評価**を位置付け、過程の質を高める。
- ・ 生徒が自ら設定した課題の妥当性や情報の整合性を省察し、次の活動に生かす。
- ・ 発表前後の振り返りシートを活用し、生徒自身の**変容を自己認識**できるようにする。
- ・ 教員・外部人材・他生徒からのフィードバックを重視。

(3) 探究が「発展的に繰り返される」振り返り

- ・ 探究活動の行き詰まり時、生徒自ら教員や地域人材に相談し、方法を修正。
- ・ 中間発表後に大学教員等から助言を受け、探究を深化させる。
- ・ Googleフォーム等を使い、他校生徒との相互評価・交流で新たな視点を獲得。

2, 今年度の「手引」の内容

キーワード
振り返り

【事例1】 日常の振り返り

- ・ 生徒が自ら教員・地域コーディネーターに相談し、探究方法を改善。

【事例2】 定点での振り返り

- ・ 中間発表後に大学教員から助言を受け、後半の活動をブラッシュアップ。

【事例3】 生徒同士での振り返り

- ・ Googleフォームやオンライン交流を活用し、互いの活動を評価・改善。

2, 今年度の「手引」の内容

○ 手引のうち、【事例1】について補足。

(3) 探究の過程が発展的に繰り返されることを意図した振り返り（事例）

振り返りにおいては、次に示すような手立てをもとに、探究の過程が発展的に繰り返されていくことを意識して指導することが大切である。

【事例1：日常の振り返り】探究活動に行き詰まった生徒とのディスカッション



どうしたら、設定した課題を解決できるのか、分からなくなっていました。話を聞いてもらえますか？

課題を解決するために、これまでどのような活動をしてきたの？問いや課題、これまでの活動を整理してみませんか？



【生徒】

探究活動を進める中で、生徒自らが悩んだり行き詰まったりした時に、生徒自ら課題担当の教員や地域コーディネータにファシリテートを依頼し、これまでの探究活動の取組や方法について検討し、随時、探究活動の方法を修正する。その際、生徒の主体性を重視し、探究の過程を繰り返す中で、探究が自立的に行われることを目指す。

【先生や地域コーディネーター】

【事例1】・・・本校の事例を取り上げていただきました。

- 「付かず、離れず」を意識しながら、あくまで生徒が主役となるよう、ファシリテートしました。
- 完全な教員主導は避けつつも、探究の柱から大きく逸れることのないよう、軌道修正のサポート等を行いました。

出典：令和7年度高等学校教育課程編成・実施の手引（総合的な探究の時間） p 4



地域C



ゼミ担当教員



3, 本校の実践紹介

- 「総合的な探究の時間」・・・ほとんどの現職の教員は、学生時代に履修の経験が無い。
- まずは、学校全体で（特定の担当者任せにせず）方向性を共有した（ポンチ絵・・・スライド10枚目参照）。



- 「総合的な探究の時間」は、**全教職員で取り組むもの**（スライド5枚目参照）。
 - 一斉授業ではなく、「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」を織り交ぜた「**ゼミ形式**」（5, 6人グループに教員1人）で実施。
 - ★ 「ゼミ形式」は、**職業校の「課題研究」**を大いに参考にした。
 - ★ 年度末の「探究発表会」は**職業校の「○○クラブ校内発表会」**をヒントにした。
- 「全く新しいこと」ではなく、優れている学校の既存の取組をまずは真似してみよう、という発想。

3, 本校の実践紹介

R7 1学年 アコロコタン (総合的な探究の時間) ロードマップ 「ひと・しごと・まち魅力発見! アコロゼミ!」

北海道白老東高等学校学校教育目標 生徒の生きる力の育成を目指す

スクールミッション (白東高ブランド)
1 地域における学びを重視する学校
地域課題探究型の学びやキャリア教育を推進
2 多様な学びを重視する学校
校内外の体験活動や地域貢献活動を通した
生きる力の育成

校訓
(白東生プライド)
自彊
聡明
礼節

グラデュエーション・
ポリシー
自己肯定力、発信力、
自己教育力、課題発
見力、共生力

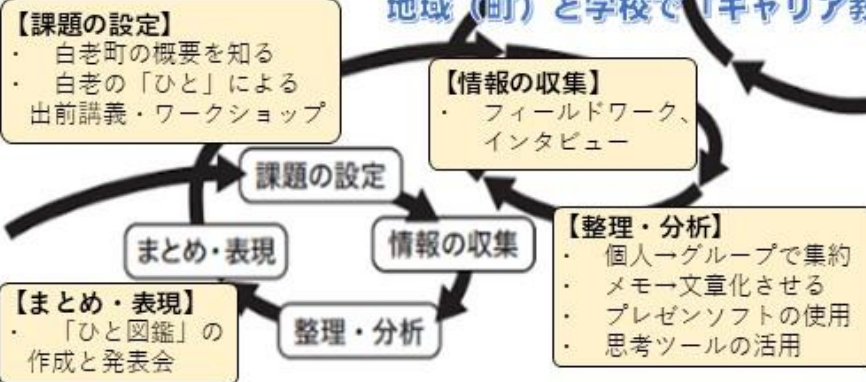
今年度のゴール (目標)
白老の「ひと」に焦点を当て、
生き方を中心に探究し、自身の
キャリア形成に結びつける。

各学年の柱

- まち
しごと
ひと
- 3年次: 白老の「まち (くらし)」に焦点を当て、キャリアを深掘り!
 - 2年次: 白老の「しごと」に焦点を当て、「在り方」を見つめる!
 - 1年次: 白老の「ひと」に焦点を当て、「生き方」に迫る!

【探究課題～何を学ぶか～】
白老に関わる「ひと」に焦点を当て、「しごと」「まち (くらし)」をとおした
「生き方」「在り方」(キャリア)を探究することで課題を見だし、その解決を目指す。

今年度の活動内容



【総合的な探究の時間の目標】
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指す。

【キーワード】

- 課題の発見と解決
- 情報の整理・分析
- まとめと表現
- 新たな価値 (ポジティブ) の創造
- より良い社会の実現
- 教科横断、持続可能性
- 地域人材 (ポテンシャル) の活用

本校の総合的な探究の時間 (アコロコタン) のポンチ絵 (ロードマップと呼ぶ)。

年度初めに職員へ周知、初回授業で生徒に提示し、目線合わせ。

また、学校ホームページにも掲載し、地域也関係諸機関にも広く情報発信している。

3, 本校の実践紹介

○ その他、目線合わせ、情報共有に使用した資料

探究学習は、教師や周りの大人が探究を進める道筋をどれだけ示すかによって、「コントロール探究」「ガイド探究」「フリー探究」の3つのレベルに分けられる。

探究活動のレベル	探究の内容	問いの生成	探究の 手順/手法
レベルC フリー探究	問いも手順もすべて生徒自身で準備する、本格的な探究	生徒が考える	生徒が考える
レベルB ガイド探究	指導者が問いや手順を生徒が選択できるように用意し、支援する探究		
レベルA コントロール探究	指導者が用意した問いと手順にしたがって学習する、トレーニングのための探究		

離

破

守

レベルA	コントロール探究：探究に必要なスキルなどを習得するための探究
レベルB	ガイド探究：習得した探究スキルを活用し、支援を受け行う探究
レベルC	フリー探究：習得し、活用した探究スキルを援用した本格的な探究

「ゼミ形式（少人数）」
で実施する。

自己肯定感が低い、成功体験が少ない、自信が無い

→ 少人数指導で手厚くサポートし、成功体験や、他者へ発信する力を育みたい。

（懸念）ゼミ形式・・・1グループ生徒5～6人に対し教員1人。教員の半数以上、学年団以外からも指導の協力を願う。受け容れてもらえるだろうか？時間割は？

現状、懸念は払拭されない。
まずは「やってみる」。授業中や年度末の生徒の表情に懸けてみたい！

協働的な学び

3, 本校の実践紹介

○ 令和6年度（昨年度）

「まち」に焦点を当てた「地域探究」

北海道白老東高等学校
第1学年 総合的な探究の時間
白老駅前プロジェクト
～白老に来て、私は今～ 出前講義

1学年の総合的な探究の時間の地域探究分野（白老駅前プロデュース～白老に来て、私は今～）が後期よりスタートするにあたり、白老のスペシャリストにご講話いただきます。

日時・場所
10月8日（火）13：20～（5，6校時） 本校体育館

講師紹介

講師① 白老町長 大塩 英男 様
【講演】「私の人生観～なぜ役場職員から町長になったのか～」
「白老の今後の将来像について、高校生に期待すること」

講師② 白老町経済振興課観光振興グループ 荒大 輝 様
【講演】「白老の観光と地域資源」

講師③ 北海道白老東高等学校地域コーディネーター 佐藤 雄 大 様
【講演】「地域探究の進め方と白老の魅力～白老町出身者として～」

北海道白老東高等学校
第1学年 総合的な探究の時間
白老駅前プロジェクト～白老に来て、私は今～

商店街紹介 パンフレット

これを見れば、白老駅前商店街と社台地区のおすすめスポットがわかります!!ぜひご覧になって、足を運んで見てください!!

北海道白老東高等学校



発表
まとめ・表現



1年間の取組が評価された。受賞がすべて、ではないが、生徒の自己肯定感の向上、外部からの助言等による振り返り、新たな問い（視点）の獲得につながった。

整理・分析 成果物（本校ホームページ）
https://www.shiraoihigashi.hokkaido-c.ed.jp/page_20240522031838

課題発見・課題設定の一助
（探究の序盤）

3, 本校の実践紹介

○ 令和7年度（今年度） 「ひと」に焦点を当てた「キャリア探究」

今年度は、「地域と連携したキャリア探究」をテーマに、白老の方々取材して「ひと図鑑」を作成・発信する活動を実施。多様な人生や価値観に触れることで、生徒が自己理解や進路意識を深めるとともに、地域への貢献にもつながることを目指す。

講師紹介

講師① 北海道白老東高等学校地域コーディネーター

佐藤雄大 様

【講演】「キャリア探究の進め方と白東生に期待すること
～白老町出身者として～」

講師② Bリーグ 愛媛オレンジバイキングス選手

玉木祥護 様

【講演】「高校からはじめるキャリアプランニング
～どうやってBリーグ選手になったのか～」

問い合わせ先

現役のBリーグ
(プロバスケットボール)
選手が白東に来ます！



©EHIME ORANGE VIKINGS

今度は、身近な大人（地域の方や本校OB）に焦点を当て、取材し、人生観を深掘りすることで、自身のキャリア形成に結びつける。



まとめ・表現として、「ひと図鑑」の形にまとめる。どのような生き方、人生の選択肢があるかを探究する。

多様な人生観の獲得、自身のキャリア形成へ結びつける。



生徒たちに講義をする玉木選手

白老東高校（大木康校長）は、プロバスケットボールBリーグ「愛媛オレンジバイキングス」の玉木祥護選手（28）を招いて出前講義を行った。柚原航太教諭（28）が中学時代の同級生で講義が実現。玉木選手のプロへの道のりに関しては「熱心に話を聞いた。玉木選手は高校からバスケットボールを始め、プロになるための努力を積み重ねた。『夢がない』ことを焦らなくていい。『今』に全力を尽くせば道は見えてくる」とアドバイス。「努力は必

「今」に全力を尽くして

白老東高 プロバスケット選手が講演

少しも報われずには限らないが、報われる可能性に限りなく近づける」と励ましの言葉を送った。同校地域コーディネーターで作業療法士のキャリアを持つ佐藤雄大さん（28）も講師を務め、「白老に生きる本物」に触れたい」と語った。出前講義は同校独自の独自の探究の時間「アロコタン」の一環。アロコタンは「アロコ」で「私」の生きる「こと」を意味し、地域住民や社会との接点を深める学びを展開している。



キャリア形成とは



どういう人生を歩みたい？

～自分の未来をデザインする～

どうすればなりたい自分になれるのか。
なりたい自分になるために、キャリア探究を通して、
選択肢を増やしてみよう！

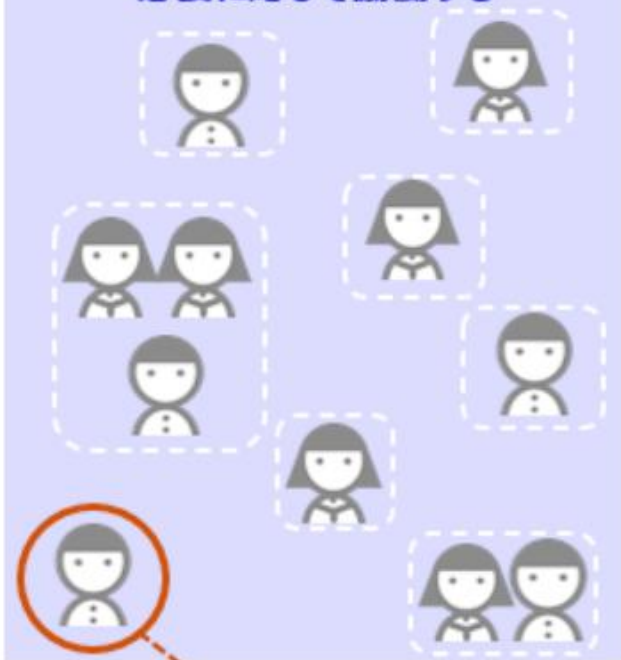
キャリア探究



キャリア探究とは、キャリア形成のための**手段**であって目的ではない。
いわば、キャリア形成のための「**架け橋**」。

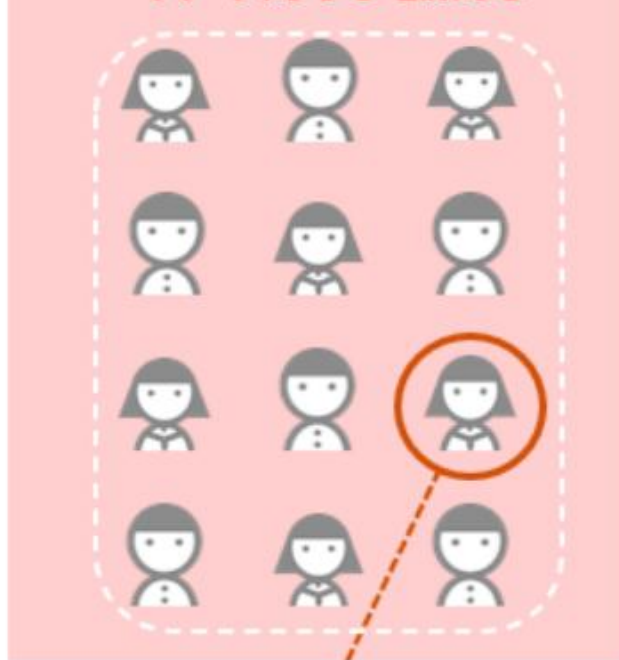
4, 提言とまとめ (参考資料)

一人一人学びながら
必要に応じて協働する



集団の中で個々が
孤立した学びとなる恐れもある

みんなで学ぶ中で
一人一人の学びを深める



集団の中で個々が
埋没する恐れもある

それぞれの良さを生かしながら
一体的に充実していくことが重要
(個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実)

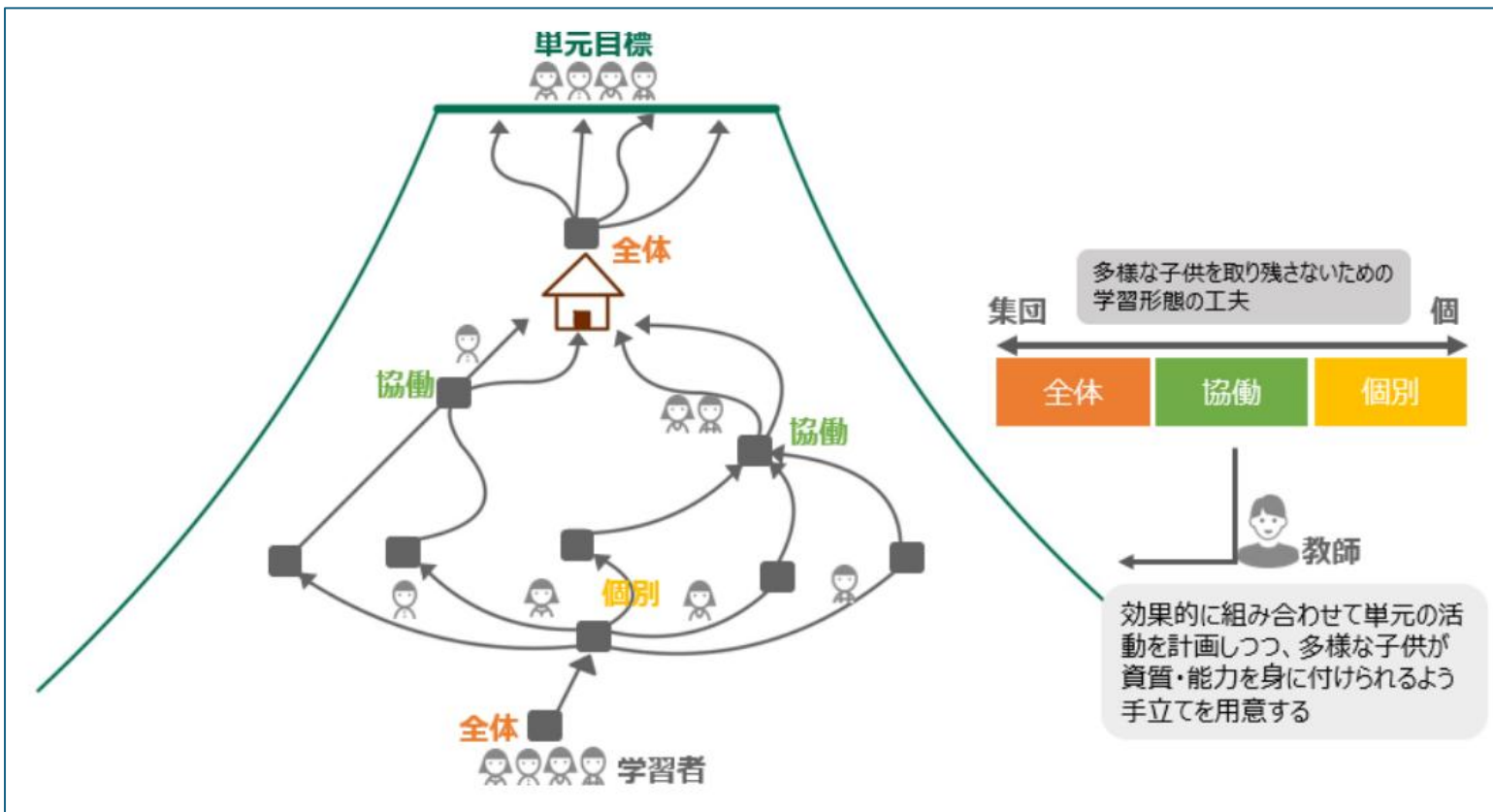
本校は、年度によって、「個別最適な学び」「協働的な学び」を（組み合わせではなく）選択してきたが…。

本年度手引の内容と 本校の実践を踏まえて

- 「個別最適な学び」が「孤立した学び」とならないよう、**生徒同士や地域との対話・協働**を通じて学びを広げ深めることが重要である。
- **個別と協働の両方を意図的に組み合わせることで**、すべての生徒が資質・能力を身に付け、持続可能な社会の創り手として成長できる。

4, 提言とまとめ (参考資料)

本校は、年度によって、「個別最適な学び」「協働的な学び」を（組み合わせではなく）選択してきたが…。



本年度手引の内容と 本校の実践を踏まえて

- 単元デザインでは、全ての子供が目標を達成できるよう、**一斉指導・個別学習・協働学習を効果的に組み合わせることが重要**である。
- 子供の実態や教科の特性に応じてそれぞれの学習形態を配置し、ICTも活用しながら、**個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる工夫が求められる**。また、単元の構想は教育課程全体の一部として位置づけ、**学校全体で育成すべき資質・能力を明確にし、計画的に単元や授業を構成していくことが大切**である。

4, 提言とまとめ (参考資料)

「協働的な学び」は、あらゆる学校で実施されている（例えば、対話を通じた価値観の共有、課題解決型の学習、多様な情報の収集と批判的思考、合意形成など）。

しかし、「個別最適な学び」は、「協働的な学び」と比較し、それほど浸透していないように見える。先日の教育課程研究協議会においても、悩んでいる先生方が多く見られた。

そもそも、「個別最適な学び」とは

公 民

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 公民科における個別最適な学び、協働的な学び

学習指導要領では、子どもたちの多様化が一層進む中で、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の実態に応じ、コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用しながら、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図ることとされている。

個別最適な学びは、「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念であり、次のような指導の個別化と学習の個性化という二つの側面で整理される。

【指導の個別化】

基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、支援が必要な子どもに対して、重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現することや、特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行うこと。

【学習の個性化】

基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整すること。

【要点】

- 生徒一人ひとりの状況や特性に合わせて、学びを最適化すること。
- 二つの側面で整理
指導の個別化：教師が生徒の理解度や進度に応じて指導方法を調整する。
→ **多様な指導方法の提供**
- 学習の個性化**：生徒が自分の興味・関心や学び方に応じて学習を進める。
→ **多様な学習機会の提供**
- ICTを活用し、学習内容の定着を支援。
- 留意点として、「孤立した学び」に陥らないよう、協働的な学びと組み合わせることが重要。

4, 提言とまとめ

① 「個別最適な学び×協働的な学び」の両立による、主体的な学びの実現

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を連続したサイクルとして位置づけるカリキュラム設計を進めたい。このサイクルを、「探究のサイクル」の中に位置づけたい。このサイクルが発展的に繰り返されることで、主体的な学びは深まると考える。

② 教師の役割＝“伴走者”としての在り方

教師が「教える人」から「支える人」へと変わる中で、支援しすぎず、放任しすぎない「付かず離れず」の姿勢が重要。生徒が自ら問い、迷い、他者と関わる過程を見守りながら、節目でリフレクションを促す伴走が鍵となる（校内研修や、教員同士の“探究的対話”の機会の重要性）。

③ 今後の方向性としての「持続可能な校内体制」

体制や担当が変わっても探究が続けられる「仕組み」が必要。探究のノウハウを個人に依存させすぎない。また、学校教育目標と探究の関連について、校内全体で共有するロードマップ等を整備・共有することで、持続可能な取組へと発展させたい。